

夏つばき

夏の初めのある日のことだった
一夕に満たない思い出 儚い記憶
気心知れた友達に助けられて
そしてあなたと三人語りました

緊張していた僕を友達が和らげるように
気の利いた話をして盛り上げてくれた

一度きりなのにかなり前なのに
はっきりとそのこと覚えています

まだお酒も飲めなかったウブだった僕は
ソフトドリンクだけでやけに気取って
冗談すら言えずにただ生真面目に
相槌するだけでときどき間抜けな発言

それでもあの時のあなたの笑顔は明るく
けして作ったものでなく
僕に向けてくれた

一度きりなのにかなり前なのに
はっきりとそのこと覚えています

夏つばき咲く道 帰りの道で
このまま別れる 辛さを感じて